

みるよむわかる生理学 ヒトの体はこんなにすごい

岡田隆夫(著)

甲南女子大看護リハビリテーション学部部長

荒賀直子

誰が読んでも楽しめる、 生理学の新しいサブテキスト

このたび医学書院から『みるよむわかる生理学—ヒトの体はこんなにすごい』が発刊されました。著者の岡田隆夫先生は長年にわたって生理学の教育、研究をされていて多くの書物を執筆されています。長年の経験の中で培われた、わかりやすい生理学の講義がこの書に集約されています。

医療職を目指す学生が専門科目を習い始めて最初の難関が、生理学・解剖学ではないでしょうか。私が看護学を学んだころは解剖生理学という名前で、教師が人体の各部所の名前や働きを述べていき(時々事例を入れながら)、学生はそれを覚えていくという授業内容であり、授業中にはそれを覚える間もなく次々に新しいことが展開していくので私自身は不得意科目の一つでした。しかし本書を開いて最初に感じるの美しい色彩で生き生きとした絵が描かれていることで、今までの生理学の本とは違った優しい印象を受けます。

本書は、まず人体の細胞の構造や血液の構成要素、各内臓の働きなど、生理学の基本的な内容について項目別に解説しています。また理解を進めるために、項目ごとにそれぞれの働きにまつわる物語を作ってコラムにまとめています。

最後の「感覚」と「睡眠」という項目の中では、日ごろ体に関して起こる現象について人々が持つ疑問や、知りたいことについて取り上げています。このように基礎となる生理学的な体の働きを理解した上で、日常生活で起こる体に関する疑問について説明するという流れでまとめており、各項目がどのように関連して体の現象が発生するのかを示しています。この最後の2項目は、医療職のみならず一般の人にもわかりやすく興味深い読みものになっています。例えば、電車の中で眠

くなるのはなぜか? なぜ肩こりが起こるの? なぜあくびをすると涙が出るの? など、この部分を読むと、なるほどそうなんだ! と納得する理由を解説しています。

最近は医学関係書もカラフルに図解する傾向にあります。本書の構成でユニークなのはカラフルなだけでなく、生理学を面白く感じさせる図が随所に表されていることです。例えば全身骨格の図は一般的には直立した骨格が描かれていると思いますが、本書は骨格が踊っているように描かれていて発想の転換をさせられます。著者も序文で述べていますが、挿絵も楽しく「みる」本としても楽しめます。

高齢社会が進んでいく中で特に関心を持たれるのは、「成長と老化」の項目で述べられる不死の細胞といわれる HeLa 細胞の話ではないでしょうか。HeLa 細胞は必要とされる限り、何百年でも生き続けることから、生理学者が人間の不死につながる新しい発見をする可能性が期待されます。

『みるよむわかる生理学』のタイトルどおり、本書の活用によって医療職の初学者には生理学が理解しやすくなる新しい形のサブテキストといえます。また自分の健康に関心のある一般の人でも見て読んで楽しめる内容になっており、読者層の拡大により生理学が身近なものになることも期待できる書になっています。



●B5/頁184/2015 年
定価: 本体 3,200 円+税
[ISBN978-4-260-02120-3]
医学書院 刊